

平成 21 年度

事業所名 : グループホームすまいる

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200111		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市 崎嶇ヶ崎9-39-34		
自己評価作成日	平成 21 年 9 月 15 日	評価結果市町村受理日	平成22年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390200111&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成21年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御家族との信頼関係を強めるため、年間計画は家族会に提案して意見を求め参加協力頂いている。入居者の声を傾聴し思いを叶えるため御家族、地域の方、職員が協力し合い実行できるよう努めている。又、地域の方々に気軽に立ち寄って頂けるよう、ホーム周りには一面に花を植え入居者と職員がおもてなしの気持ちでお迎えできるよう手入れをしている。その成果が実り今年も朝顔も見事に咲き、畑で収穫した野菜は御近所におすそ分けして、大変好評だった。地区の老人クラブの協力も得られるようになり、やっと地域の仲間入りが出来た事を実感している。今年も盛岡市よりコーラスグループ23名の慰問があり、大変喜ばれた。初めて全員で家族旅行も行い親子で一晩過ぎて頂いた。これからも入居者様の思いを察し、家族の絆を大事に考え支援していきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着サービスとは何かを全職員で検討し、ホームの理念を見直しながら実践に取り組んでいる。「地域との交流」では、新しい住宅地であるが散歩中の挨拶、ホームの前を通る住民や保育園児に声を掛けたり、意識して玄関前を花で飾り鑑賞してもらい話し合いのきっかけをつくったり、自治会の行事には積極的に参加するなどして輪を広げている。また、入居者それぞれの思いの把握に努めるとともに、ケアに関しては排泄や入浴支援の際には入居者の心身の状況に合わせた声がけを工夫しており、一人ひとりの尊厳を傷つけることなく安心して生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホームすまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内ホールと職員の更衣室に掲げ業務に着く前に唱和している。ホームの行事には地域の方々にも呼びかけ参加して頂いている。	ホーム運営の基本となる理念には、地域の人々と一緒に運営していこうという考え方を新たに盛り込み、ホールと更衣室に掲示するとともに、業務に就く前に職員全員で唱和して共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	45号線沿いの花壇の草取りを職員と共に行なったり、ホームの畑で収穫した野菜を地域の方々へ届けて喜ばれている。又、地域の方の好意で畑をお借りし、栽培の指導を受けている。	町内会の人たちとは、非常に親しい関係を築いており、今年は地域の人たちの協力を得ながら運動会を開催することができた。またホームで収穫したジャガイモやキュウリなどを近所に配り喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の中学、高校生の職場体験学習の受け入れ認知症の方との交流。ホーム内のホールで地域の方を交えてAEDの講習会を行っている。介護教室も予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果を基に推進会議で話し合い、サービス向上の為の討議の場として活かすことができるよう取り組んでいる。	推進会議は2ヶ月に1回開催され、外部評価の結果報告や、ホームの行事への協力をお願いする等、活発な話し合いがなされている。また、認知症の人への接し方やAEDの扱い方などの講習もホーム主催で行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年度初めに行事計画について相談、外部評価結果について等、ホームの広報紙を届けながら、市担当者とは面談している。	市町村とは、年度の行事計画を相談したり、ホームの広報を届けに行った際に外部評価結果やホームの運営について報告し、アドバイスを受けるなどの連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間勉強会計画の中にもあり、内部研修等で全職員が理解しており、身体拘束、行動の制止をしないようケアに取り組んでいる。	勉強会で取り上げ、身体拘束はあってはならないことだとの意識啓発に取り組んでいる。居室に鍵はなく、出かけようとする入居者の様子を察知してさり気なく声をかけ寄り添うなど、行動制限をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で話し合う場を設け、勉強会等で周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修で全職員が理解している。制度利用が必要な入居者様には、説明し関係者との話し合う機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、納得を得た上で契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の日常の言動から思いを受け止め適切に対処している。御家族様も意見、要望を気兼ねなく話してくれる。話された意見はミーティングやカンファレンスで話し合いされる。	日常の入居者との会話や、行動などから希望をくみとったり、家族会で出た意見にはその都度丁寧に回答している。また、運営推進会議には利用者、家族の代表もメンバーとして参加している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にコミュニケーションがとれている。又、ミーティングで意見を述べる機会があるとともに個別面談も定期的に行い意見を反映させている。	職員同士の人間関係がすこぶるよいので日常での会話からも職員の意見を聞くことはできる。さらに月初めのミーティングと年1回職員との個別面談を通して職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業績評価を定期的に行っている。各自が向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の運営方針にも掲げており、職員のキャリアアップのためのバックアップ体制ができています。経験年数に応じた研修参加の促がし、研修参加者の研修伝講も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修、グループ内の管理者、計画作成担当交換研修、合同勉強会、スタッフ交流会等情報交換の場への参加を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申請時本人と面談、又自宅訪問し、本人の不安や要望に耳を傾け信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との面談同様、申請時や訪問時に家族の不安や意向を伺い、信頼関係作りに努めている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を行い、要望や現状を把握した上でケアマネや関係者と連携をとりながら必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や畑仕事等日常的な事から、年末年始の行事のやり方、長年の習慣になっている事等その時々教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との関わりはホームで一番気をつけているところであり、家族会において年間行事を話し合い家族旅行、折々の行事への参加は欠かせないものであり、御家族のお陰で行事の成功も得られると職員は感謝している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の主治医もそのまま変える事なく、受診を継続、行きつけの美容院や自宅への外出、外泊の支援を行い、馴染みの人との関係継続に努めている。	入居前に通っていた美容院や診療所にはそのまま利用できるように配慮し、自宅への外泊や亡夫の慰霊祭への参加、墓参り等は個人毎に望みが叶えられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が仲間意識を持っており孤立しそうな方も職員の仲介で仲間に入っている。お互いに声を掛け合い支えあう関係ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にも御家族の不安な気持ちを思い、今後も縁が切れたわけではないのでいつでも心配な事があれば連絡下さいと伝え、退居後も不安なく他のサービスに移行できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活歴、趣味、特技等職員が把握しており、日常の中でも入居者様が決定したり、自由に選択できるような環境を作っている。	入居者個々の生活歴からホームでの暮らし方や希望は推量できるものの、入居者個々の担当職員が日常の言動をきめ細かく観察し、家族の意見を加味し、入居後の日常的な希望や意向等を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方は、ほぼ把握できている。本人から昔の話の聞いたり、御家族来所時に必要な情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェック、表情、コミュニケーションから心身の状態の観察をしており、一日の過ごし方や力の把握もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメントを行っている。入居者様、御家族様の意見や要望は都度伺い、カンファレンスを通じてより良い介護計画を作成できるよう努めている。	利用者の思いなどは、家族の協力を得ながらセンター方式を利用して把握に努め、できるだけ入居者の希望に沿った生活が実現できるように見守りながら、3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の様子や現状、思いを分かる記録を残せるよう心掛けている。介護計画見直し時には必全員で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族からの要望があれば、宿泊にも対応しており、御家族との外出、外泊にも対応。面会時間は特に決められておらず自由に来設して食事時には一緒に食事ができる様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コーラスボランティアや地域の方の協力で畑で野菜作り、施設行事には、多数のボランティアの参加、中学校体験学習での交流、一緒に調理を行ったりわらじ作りで地域の方に指導いただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医が主治医となっている。家族対応の方には日々の様子を手紙に記し、適切な診療を受けられるよう支援している。	ホーム入居後も入居前と同じかかりつけ医へ受診している。また、通院には職員が付き添い、ホームでの様子を医師に話し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に日々の様子、受診時の医師の指示等伝えて連携をとっており、急変時には適切な対応、指示に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者や家族と情報交換を行い安心して治療できるよう、又早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、御家族様、主治医との話し合いを蜜にし、その人らしさを尊重して方針を定め関係者全員で共有している。	「利用者の重度化及び看取介護に関する指針」を作成し、本人・家族に説明しており、希望によってはホームで終末期を迎えられるよう関係機関と話し合いながら、主治医の指示に基づいて訪問看護等を活用し、家族の希望の実現に取り組んでいきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの再確認や、内部研修で職員全員が把握できている。又AED講習会も定期的に開催し実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している。その際地域の方々の協力もあり、火災通報連絡網には地域の方への連絡も届く事になっている。	年に2回消防署の指導を受けながら避難訓練等を行っている。そのときには地域の方にも呼びかけ積極的に参加してもらっている。	通常の災害訓練のほか、例えば夜間を想定した訓練や通報訓練網を使った訓練の実施に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーの確保については内部研修、マニュアルにより職員全員が認識しており実践できている。	ホームにおいては、研修会を通じて職員の意識啓発を図るとともに、利用者が排泄、失禁、入浴介助の時には羞恥心にも十分配慮し、心ない言葉掛けはしないように支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ多くの場面で希望を聞いており自己決定を促がすよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり起床する方には、朝食を遅く提供したり、その時々に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に本人の希望を聞きながら支援している。化粧や外出時のおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、メニューを考えて、調理や盛り付け等役割分担があり、それぞれの得意なところを生かす事ができるよう支援をしている。	調理は入居者毎に役割分担を決めて行っている。何か行事がある時には、器を変えてみたり、季節の節目となる節句にはその時期にあった料理を出すなどの工夫をし、食事を楽しめるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をひとめで分かるよう記録しており申し送りでも情報をつないでいる。食事量低下の場合でも管理栄養士に相談し代替を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。状態に応じ歯科医に相談したり、歯科衛生士による口腔ケアの勉強会もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛けによりトイレ誘導、夜間の声掛けにより失敗しないよう自尊心を傷つけないよう声掛けを行っている。	入居者の排せつパターンを事前に把握しており、それに入居者の水分摂取の量等を観察しながら、早め早めにさりげなく声掛けをし、自立した排泄が継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多目のメニューや食物せんいの食材、海藻類を使用し個々に合った方法で支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴しており、入居者同士で互いに順番が大体決まっている方もある。介助は同姓の希望もあり、対応している。	毎日入浴でき、順番は入居者の中でおのずと決まっている。また、端午の節句には菖蒲湯にしたり、夏には青色の入浴剤を冬にはオレンジ色をと、風呂を楽しみながら季節を感じてもらえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や休息、就寝時間等それぞれに安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量については理解している。服薬は個々に合った方法で支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみごとにより充実間を感じ、気分転換によりリフレッシュ出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒に買い物に出かけたり、踊りを見に出かけたり、家族の協力により、本人の希望で温泉旅行も叶える事ができた。	日常的にはホームの周辺の散歩が主ではあるが、外食やスーパーマーケットへ買い物に出かけたりしている。昨年は、入居者一人の「温泉に行きたい」との希望を叶えるため、家族会の協力を得て近郊のリゾートホテルで入居者全員の宿泊旅行が実現した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じた支援をしている。職員と一緒に買い物に行き、支払いをする方もいる。お金を所持している事で安心する方は小額であるが所持しており、職員がトラブルにならない様に気配りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は相手方に失礼にならない時間に対応。年賀、暑中見舞い等、絵手紙等を送りお返事をいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の日当たりの良い場所に椅子を置き、入居者お気に入りの場所になっている。ホールには季節の花を飾ったり、四季を通じて季節を感じる事が出来るようにしており又、楽しかった思い出をホール内の壁に貼っている。	入居者の皆さんが普段過ごすホールは、面積も十分で天井が高く、採光は天窓から取り入れられ、明るく開放的な共用空間となっている。季節を感じさせる織紙で壁を装飾し、季節の花の生け花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内でそれぞれにお気に入りの場所があり、一日のペースの中で自然に、気の向くまま、気の合った方同士、穏やかに過している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族に協力して頂きながら、馴染みの物を持ってきてもらったり、御家族との写真を飾る等している。	居室には、亡夫の位牌等が飾っており、自宅で使いたれた収納箱等が置かれている。床はフローリングではあるが入居者の好みによっては畳の利用もでき、心地よく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力の発揮ができる様又、安全な環境づくりに努めている。		